

瑞慶村 知佳 (ZUKEMURA Chika)

主任研究員

- 2011 農研機構 農村工学研究所 農地基盤工学研究領域
2016 農研機構 農村工学研究部門 農地基盤工学研究領域
(改組により組織名が変わる)
2019 農研機構本部 人事部 人材育成室
2021 農研機構 農村工学研究部門 農地基盤情報研究領域
※[バックナンバー第41号\(2013年8月\)](#)も合わせると、
2011年以前とつながります。



研究者の横顔

みなさん、こんにちは。本コーナーに、第41号(2013年8月)以来、9年ぶり2回目の登場です。その間の研究活動については、瑞慶村(2017)^{*1}で執筆する機会があったので、ご興味があればご覧いただければと思いますが、今回その内容を見返したら、「最近とはあるプロジェクトで、転作水田の圃場の排水性の良否の評価方法を検討している」とありました。2019年から2年間の農研機構本部人事部人材育成室への配置換などもありましたが、水田転換畑の圃場排水性の評価は現在も引き続きテーマです。実は、圃場排水性を把握するための明確な定義というのはありません。何をもちいて圃場排水性と言うのかによって、また、土壌水分量などを測定するタイミングや測定する深さによっても、値の解釈が変わります。「こういった条件の中で」という注釈が増えるほど指標としては使いにくいですが、現場の役に立つ形で発信できるように、何とかまとめたいと考えています。

^{*1} 瑞慶村(2017)、フィールドワークは面白い、農業農村工学会誌、85(5)、439-442、https://doi.org/10.11408/jjsidre.85.5_439

コロナのパンデミックで生活が大きく変わりました。そろそろマスク生活も終わるかも!?と期待していますが、パンデミック前後を思い返した時、みなさんが印象に残っていることは何でしょうか? 私はというと、人事部人材育成室配属1年目の終わり頃にコロナのパンデミックが始まりました。研究職員向けの研修の企画・運営を担当しており、「2年目は、1年目の経験を生かせるから、少し楽になるかな」と思っていたら、コロナ禍で全ての研修がつくばでの集合形式からオンライン形式に切り替わることになり、2年目の方が大変でした。ただ一方で、室員全員がオンライン形式の研修を主催することが初めてで前例がないため、自然と室として一体感が生まれ、事務系や技術支援系などの職種の異なる職員の方々ともこまめに相談や助言をし合い、企画内容をイチから練り上げる経験ができたことは本当に良かったなと思います。同僚とのコミュニケーションの大切さを痛感し、それは今後も意識していきたいと思っています。

最後に「横顔」的な話題を…最近の息抜きはマンガを読むことです。子供に連れられ「ONE PIECE FILM RED」の映画を4回も見に行き(ウタのライブシーンは最高ですね)、そんなタイミングで、ONE PIECEを含め150冊くらいのマンガを弟から譲り受けることになり、高校生の頃以来のマンガ熱が再燃中です。電子本より紙本派なのでかさばりますが、足りない巻号を買い足し、さらに別のマンガを大人買いして楽しんでいます。次は「ゴールデンカムイ」を読む予定です。皆さんのオススメのマンガがあれば、ぜひ教えて下さい!!…と、まあすっかりインドア派ですが、大学生の時に蓄えた筋肉貯金を取り崩している感があるので、また運動をしたいなぁと思う今日この頃です。